

令和５年度 指定管理者点検結果

施 設 名	玉野市障害者地域活動支援センター「こころの里」
所 在 地	玉野市宇野１丁目８番８号
指 定 管 理 者	名 称 特定非営利活動法人 円い空 代表者 理事長 青井 一展 住 所 玉野市宇野１丁目８番８号
指 定 期 間	平成３１年４月１日 ～ 令和６年３月３１日（５年間）
担 当 部 課	健康福祉部 福祉政策課 電 話 ０８６３－３２－５５５６ E-mail fukushi@city.tamano.lg.jp

評価内容の総括	総合評価
本施設のこれまでの実績を基盤として、利用者の個々のニーズへの対応に努め、きめ細やかな支援を強化していくことを主眼に事業を実施している。 指定管理、運営等の実施状況は良好であり、全体としても良好に指定管理を行っている。	A

■「総合評価」の評価基準

- S（優 良） 次の３項目の評価結果が全てA以上であり、かつSが２つ以上である。
- A（良 好） 次の３項目の評価結果が全てA以上である。
- B（課題含） 次の３項目の評価結果にBが含まれている。
- C（要改善） 次の３項目の評価結果にCが含まれている。

① 業 務 の 実 施 状 況	評 価 結 果
【適切な施設管理の履行】 障害者地域活動支援センターとして、利用者・利用者家族・支援ボランティア・地域の関係機関の意見を踏まえながら、精神障害のある利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう必要な支援を継続している。 【法令等の遵守】 障害者総合支援法や岡山県が定める条例、玉野市障害者地域活動支援センター条例等の法令等を遵守し、適切な施設運営が実施できている。 【安全性の確保】 セキュリティ・消防業務等の専門的な業務は、委託業者を用いながら適切に実施されている。 【財産の適切な管理】 維持管理は適切に実施されている。 【利用状況】 利用契約者は毎年増加しており、また、年間平均利用者数も増加している。 【コスト削減への方策】 コスト削減については、支出の大半が人件費関連の支出で、日頃からコスト削減の努力がされており、これ以上のコスト削減は見込めない。	A
② サ ー ビ ス 向 上 へ の 取 り 組 み	評 価 結 果
利用者に対し個別の日常の相談援助業務を継続するとともに、施設の認知度を上げるための地域交流等イベント等を継続、サービスの維持向上に取り組んでいる。	A
③ 団 体 の 経 営 状 態 （ 経 営 の 健 全 性 ）	評 価 結 果
相談支援事業対応による計画相談給付費収益の維持等により、経営努力を行っており、黒字経営を継続している。	A

■「評価結果」の評価基準

- S（優 良） 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である。
- A（良 好） 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である。
- B（課題含） 協定書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- C（要改善） 協定書等の基準が遵守されておらず、改善が必要な内容である。

I 業務の実施状況に関する事項

1 管理体制の状況

(1) 指定管理業務の実施体制図（外部委託先を含む）

別紙「組織体制図」のとおり

(2) 人員配置状況

施設長 1名（相談支援専門員 兼務）

精神保健福祉士 4名（常勤専従2名、常勤 相談支援専門員 兼務1名、非常勤専従1名）

支援員（非常勤専従）1名

※常勤換算3.5人

2 施設・設備の維持管理業務の実施状況

・建物・設備の保守管理業務

建物の老朽化が進んでおり、随時所管課と協議しながら補修等を依頼している。昨年度に建物の耐震改修工事が大規模に行われたこともあり、今年度も修繕箇所は無かったが、空調設備（業務規格）が既に耐用年数を超えており、来年度以降、大規模修繕が必要と見込まれている。

消防設備・電気設備の保守点検は外部に委託して行っている（岡山県備前県民局建設事務所・宇野港管理事務所と合同）。

・清掃業務

経費節減の観点から、通常の清掃は職員にて行っている。

屋外の植栽の手入れなどは年2回、利用者有志・利用者家族・支援ボランティアの協力を得ながら行っている。

建物の共用部にあたる1階トイレの清掃については、業務委託にて行っている。また、年1回程度外部業者に委託し、床のワックスがけ等を行っている。

・警備業務

警備・保守管理は外部に委託して行っている（岡山県備前県民局建設事務所・宇野港管理事務所と合同）。

・駐車場管理業務 等

岡山県備前県民局とも協議の上、利用者用駐車スペースを4台分確保している。

公用車及び職員通勤車両は行政財産使用許可を得て敷地内の駐車場を借用している。

3 利用等の許可の状況

原則として玉野市在住（または玉野市内に住民票を置く）で、精神科・心療内科等専門医に定期通院する方を利用対象とし、利用契約時に同意の得られた利用者からは、主治医より「情報提供書」を得ている。

利用者状況は、別表「令和5年度 利用契約者状況」参照のこと。

Ⅱ 施設の利用状況に関する事項

1 施設・設備の利用状況

- ・利用許可の総件数、各施設・設備ごとの利用許可（不許可）件数
- ・利用者名、利用日時、利用目的、参加者数 等

別表「令和5年度 利用契約者状況」のとおり。

Ⅲ 自主企画事業の実施に関する事項（協定書に追加した事項等）

1 イベント名、内容、参加者数、収支状況 等

別表「令和5年度 利用契約者状況」および各「地域交流活動推進事業実施報告書」のとおり。

Ⅳ 料金収入の実績及び管理経費等の収支状況等

1 利用料金の収入及び減免の状況

（１）利用料金の収入総額、各施設、設備ごとの収入額 等 該当なし。

（２）減免の総額、各施設・設備ごとの内訳、減免理由 等 該当なし。

2 管理に係る収支の状況

(必要に応じ詳細な収支報告書を作成すること)

(1) 収入

項 目	金 額	備 考 (内訳など)
利 用 料 収 入	0	
指定管理料収入	17,000,000	
そ の 他 収 入	5,734,612	計画相談給付費、障害支援区分認定調査委託料、物価高騰支援金、精神保健福祉実習委託料、他
収 入 合 計	22,734,612	

(2) 支出

項 目	金 額	備 考 (内訳など)
人 件 費	19,359,168	従業員給与、法定福利費及び福利厚生費
光 熱 水 費	506,515	
委 託 料	346,516	保安委託料、電気設備・消防設備保守委託料、トイレ清掃委託料、事業所一般廃棄物収集・処分費
事 務 費	241,156	自動車保険、車両燃料費
修 繕 料	0	
保 険 料	153,984	しせつの損害保険、公用車自動車保険料
租 税 公 課 (事業所税を除く)	70,760	印紙代、登記事項証明書発行手数料、他
そ の 他	2,005,433	外部講師等報償費、印刷製本費、通信費、備品消耗品費、支払手数料、新聞図書費、他
事業所税相当額	0	
消費税相当額	0	
支出合計	22,683,532	

V 自己点検結果

自己点検の方法、結果、改善方法 等

随時各職員により観察を行い、不具合が生じた際などは所管課と協議の上、軽微なものについては職員にて修繕等を行っている。業者に修理を依頼する場合や支援ボランティアの協力を得ることもある。

今年度は、備品の大きな故障等はなく、修繕の機会は無かった。

VI 経費節減・サービス向上に関する取組み

引き続き、各職員の省エネ意識を維持し、節電・節水に努めるとともに、利用者の皆さんにも省エネに対する意識をもって頂けるよう、各職員で働きかけを継続した。結果、電気使用料はほぼ前年並みだったが、電気料金の水準は高く、一定額の支出となった。

地域交流普及啓発事業について、昨年度から開催方式を一部変更して再開している。通常のセンター内活動については、引き続き、感染拡大防止の観点から、換気を行う、小グループに分かれて密集を避ける、食事中的会話は避ける等、リスクを最小限とする対策を講じた上で継続している。今年度も施設において集団感染が発生することは無かった。

今年度も、通所利用される方の滞在時間は短時間にとどまる傾向が続いている。通所利用件数は回復基調・増加傾向にあった。電話相談は昨年度に引き続き高い件数で推移した。

相談支援事業においては、当センターで対応できる上限にほぼ達している状況が続いている。

コロナ禍において「家族の集い」、「ボランティア交流研修会」の開催を3年間見合わせていたが、再開にあたり、長らく利用者向けの学習会を実施できていなかった状況ともあわせ、初の試みとして、利用者・家族・ボランティアが一堂に集う「合同学習会」を実施した。参加者数は限定的であったが、参加した方からの感想は好評であり、来年度以降も継続する予定である。

利用者の当事者活動については、月1回の定例会への参加者は限られており、会務運営に課題はあるが、年数回の親睦・交流の場には参加者数が戻りつつあり、活気が戻りつつある。

VII その他

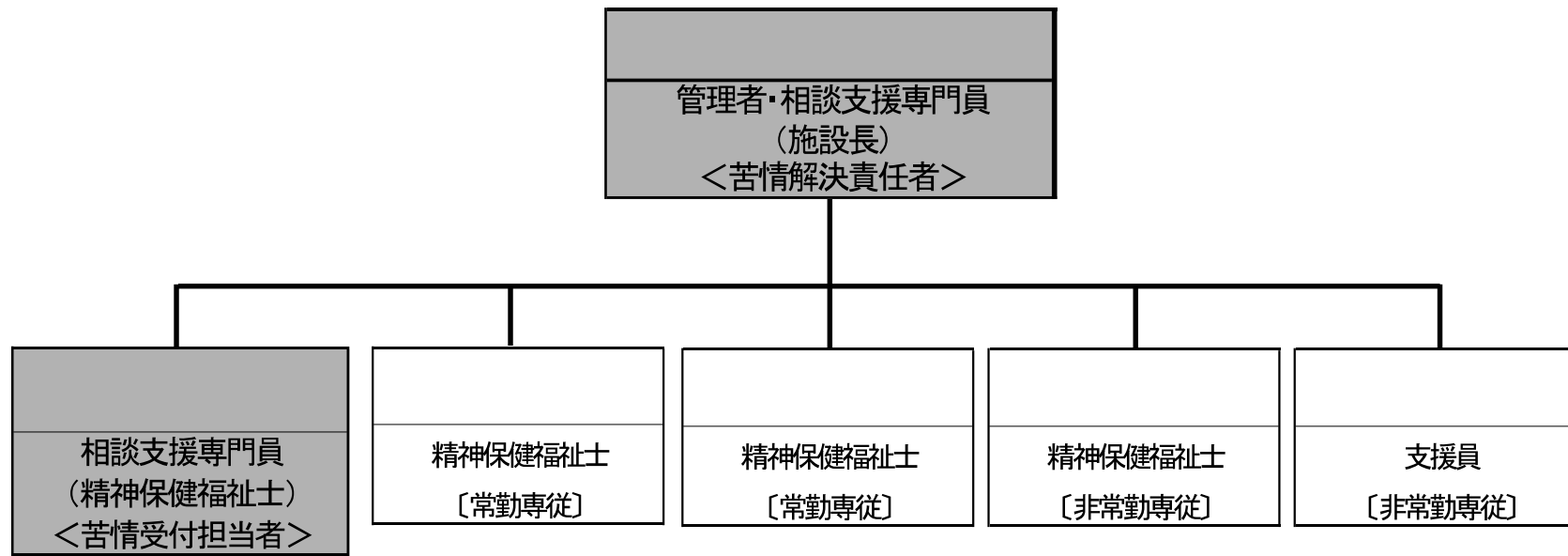
新規利用者は昨年度より2名減の16名だった。新規契約者の内訳をみると、「地域活動支援センターI型」のみの契約者は昨年度と同じく4名であった。相談支援事業契約者昨年度14名に対し、今年度は12名と、相談支援・ケアマネジメントのニーズは高いが、同時に、対応できる上限に達していることをあらわす数字でもあった。

今後とも、地域活動支援センターと相談支援事業の両立が、今後とも課題と考えられる。

今後とも、利用者一人一人の個別性の高いニーズに対応可能な体制を維持し、それぞれの課題や背景に合った支援センター像を模索していきたい。

地域活動支援センター こころの里

組織体制図 （地域活動支援センターⅠ型・指定特定／一般相談支援事業所）



※ 網掛け部分を指定相談支援事業所職員とし、()内の職種を兼務する。

令和5年度 利用契約者状況 (令和6年3月31日 現在)

表1. 開所日数・利用契約者・相談事業利用状況

	開所 日数	契約利 用者数	新規契約		契約解除者		利用者数(実人数)			一人 平均 (日)	利用者数(のべ)			一日 平均 (人)	相談状況										面接 相談	電話 相談	同行・ 訪問	サロン	夜間 電話 件数	夜間電話件数			家族	見学・ 来訪者						
			男	女	男	女	総数				総数	男	女		相談状況														18:00 ～	19:00 ～	20:00 ～									
							総数	男	女						総数	人間関係	生活関連	仕事関連	病気・薬	施設利用	福祉制度等	その他																		
4月	20	378	0	1	1	0	95	53	42	5.7	538	363	175	26.9	606	5	299	26	13	176	86	1	102	469	35	45	0	0	0	0	17	29								
5月	18	379	1	1	1	0	111	64	47	5.1	561	386	175	31.2	608	5	297	35	20	153	98	0	120	442	46	48	1	1	0	0	17	32								
6月	22	379	0	1	1	0	100	56	44	6.6	657	430	227	29.9	751	4	369	35	7	198	135	3	80	619	52	64	0	0	0	0	12	53								
7月	21	383	2	2	0	0	103	57	46	6.2	643	433	210	30.6	637	5	335	18	11	154	113	1	83	501	53	68	0	0	0	0	15	21								
8月	20	384	1	2	0	2	102	55	47	5.8	593	398	195	29.7	649	16	321	9	29	157	116	1	90	510	46	51	0	0	0	0	4	30								
9月	20	385	0	1	0	0	110	63	47	5.1	561	369	192	28.1	675	10	322	16	28	167	131	1	91	538	46	46	0	0	0	0	12	30								
10月	21	384	1	0	1	1	113	63	50	5.4	610	410	200	29.0	681	10	351	24	16	185	94	1	82	560	41	31	0	0	0	0	15	70								
11月	19	384	0	0	0	0	111	59	52	4.9	546	349	197	28.7	597	0	261	20	9	188	118	1	62	489	52	26	0	0	0	0	11	21								
12月	20	384	0	0	0	0	107	60	47	4.7	504	330	174	25.2	516	3	241	20	10	156	86	0	70	408	43	25	0	0	0	0	16	37								
1月	18	382	2	0	2	2	105	61	44	4.9	510	341	169	28.3	514	8	225	38	8	134	101	0	64	418	32	34	0	0	0	0	15	36								
2月	18	380	1	0	2	1	108	60	48	4.5	483	329	154	26.8	496	12	231	39	4	116	93	1	76	381	39	27	0	0	0	0	14	30								
3月	20	380	0	0	0	0	108	66	42	5.3	571	385	186	28.6	631	19	311	23	9	158	110	1	101	476	54	32	0	0	0	0	23	23								
合計	237	380	8	8	8	6	-	-	-	-	6,777	4,523	2,254	28.6	7,361	97	3,563	303	164	1,942	1,281	11	1,021	5,811	539	497	1	1	0	0	171	412								
平均	19.8	-	-	-	-	-	106.1	59.8	46.3	5.3	564.8	376.9	187.8	28.6	613.4	8.1	296.9	25.3	13.7	161.8	106.8	0.9	85.1	484.3	44.9	41.4	0.1	0.1	0.0	0.0	14.3	34.3								

表2-1. 生活支援事業参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
料理教室	-	7	-	8	-	6	-	7	-	9	-	5	42	7.0
手芸教室	2	-	3	-	3	-	3	-	3	-	3	-	17	2.8
カレーの日	11	-	12	-	12	-	-	-	12	-	11	-	58	11.6
鍋の日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
絵手紙講座	0	1	0	1	0	0	0	0	0	-	-	-	2	0.2
スポーツの日(大会含む)	4	11	-	3	6	4	5	-	6	2	4	3	48	4.8
ソフトバレーボール	3	2	6	2	2	3	2	2	3	3	3	1	32	2.7
のだ自慢会	3	-	4	2	3	2	5	4	6	2	6	3	40	3.6
シフォンケーキ作り	4	3	1	1	4	3	4	5	5	6	1	2	39	3.3
リフレッシュ教室	3	0	1	2	1	0	0	0	0	-	2	-	9	0.9
パソコン教室	5	2	1	4	0	4	2	4	2	1	5	4	34	2.8
レクリエーションの日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	5.0
ランチの日	-	14	-	11	-	13	-	12	-	9	-	17	76	12.7
ぜんざいの日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	11	11.0
きなこもちの日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	9	9.0
合計	35	40	28	34	31	35	21	34	37	43	35	49	422	77.4

表2-2. 当事者活動参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
めばるの会	15	2	7	18	1	4	3	17	7	4	3	5	86	7.2
話茶話茶の会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.0
合計	15	2	7	18	1	4	3	17	7	4	3	5	86	7.2

表2-3. ボランティアよりの支援状況(参加ボランティア数、延べ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
カレーの日	3	-	3	-	4	-	-	-	3	-	3	-	16	3.2
料理教室	-	3	-	2	-	-	-	3	-	2	-	2	12	2.4
手芸教室	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	6	1.0
絵手紙講座	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
ソフトバレー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
シフォンケーキ作り	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
リフレッシュ教室	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	4	1.0
レクリエーションの日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1.0
ランチの日	-	6	-	2	-	5	-	2	-	4	-	2	21	3.5
その他	-	-	-	-	-	2	18	-	14	-	-	-	34	11.3
合計	5	9	4	5	6	7	19	5	18	6	5	5	94	7.8

表3. 世帯構成(人)

	家族と同居	独居	その他(GHなど)	合計
男性	135	53	25	213
女性	125	26	16	167
合計	260	79	41	380
%	68.4	20.8	10.8	100.0

表4-1. 年代構成(人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
男性	3									

地域交流活動推進事業実施報告書

開催日時	令和5年 6月 17日（土曜日） 13時 ～ 14時30分
開催場所	サロン・調理場
参加人数	利用者：13名 一般：12名 奏者：3名 職員：5名 合計：33名
内 容	【 サロン・コンサート 】 《 目 的 》 日頃、あまり体験できない生の演奏をとおして癒しの場を提供するとともに、演奏後の交流会により精神障害者（利用者）と地域住民が触れ合う機会を設けることで、お互いの理解を深めることを目的に開催した。また、当センターを広く地域住民にPRする機会として活用することも併せて目的とした。 《 内 容 》 中井太一氏、藤井菜摘氏（くらしき作陽大学音楽科・学生）とチェロ奏者の柳橋泰志氏をお招きし、「室内楽の愉しみ」と題して1時間程度の演奏会を開催した。演奏後は参加者から質問や疑問を募り、演奏者の方にお答えいただきながら交流できるトークタイムを30分程度設定。参加者より300円の会費を徴収し、お土産としてこちらの里利用者が焼いたシフォンケーキを持って帰っていただいた。 《 反省及び課題など 》 ・昨年度と同様、感染症拡大防止の観点から来場者を30名(1ヶ月前より予約開始・先着順)に限定し、飲食を伴わないスタイルで開催。 ・予約開始から数日で予約が定員に達したが、前日～当日にかけてキャンセルが多く出たため最終的な来場者数は25名であった。空席が出る格好になったため、少し寂しさも感じてしまった。キャンセル待ち（ウェイティング）を設けたが連絡が取れず予約に繋がらなかったケースもあり、来場者数が前後することを見越して当日の会場設営を行う必要がある。 ・コンサートの曲目は、クラシックや歌謡曲など馴染みのある曲を選んで下さったため、皆さん楽しんで聴かれている様子であった。トークタイムでは素朴な質問やコンサートの感想が挙がり、和やかな雰囲気となった。

地域交流活動推進事業実施報告

【 サロン・コンサート 】



「室内楽の愉しみ」



客席の様子



トークタイム

地域交流活動推進事業実施報告書

【 こころの里まつり 】

開催日時	令和 5 年 10 月 7 日（土曜日） 11 時 30 分 ～ 14 時 00 分
開催場所	駐車場
参加人数	利用者：30 名 運営ボランティア：18 名（個人登録ボランティア、社協、岡山大学） 出演ボランティア：13 名（玉野フォークダンスクラブ） その他：9 名 職員：6 名 ／合計：76 名
内 容	《 目 的 》 地域との交流と、こころの里の活動の認知を目的に、利用者・家族・各種ボランティア団体・地域住民の方と共に、毎年の恒例行事として祭りを開催している。 当日は参加者が、模擬店・カラオケ・ゲーム・フォークダンスなどを通じて交流し、お互いの理解を深め合う。当事者会による出店や利用者のステージ出演を募集し、利用者が積極的に行動し、達成感を味わえる場となることを期待する。 尚、今年は学生によるステージの参加はなかったが、岡山大学のボランティアサークルの学生やこころの里で実習中の川崎医療福祉大学の学生が参加し、利用者と交流した。 《 内 容 》 好天に恵まれ、開放的な屋外であたたかい雰囲気祭りとなった。今年も新型コロナウイルス感染症に配慮し、マスクを着用とした。 日頃から支援いただいているボランティアの協力による各種模擬店（カレー・うどん・おでん・かき氷・ジュース・ネギ焼）はすべて完売。地域の作業所からの応援出店もあり、来場者には食事や買い物を楽しんでいた。 ステージの催しでは、のど自慢大会（カラオケ）は事前の申し込み以外に、時間まで飛び入り参加を受け付けた。利用者出演のコーナーは残念ながら今年は希望者がいなかった。ビンゴゲームは景品を用意し来場者全員参加で盛り上がった。 フォークダンスは、玉野フォークダンスクラブの方が手を繋がずに楽しめる踊りを選んでくださり、華やかなフィナーレを飾ることができた。 《 反省及び課題など 》 ・今年も安全に開催することができて良かった。 ・前日準備から当日の片付けまで多くのボランティアに協力いただいた。 ・岡山大学のボランティアサークルに依頼したところ3名の参加があり、準備・片付け等若者のパワーに助けられた。 ・地元高校生との交流の機会として出演依頼の声掛けをするも、時期的に試験と重なり難しい。

地域交流活動事業実施報告 【こころの里まつり】



ボランティアによる屋台



全員参加で BINGO 大会



フォークダンス
(玉野フォークダンスクラブの皆さんと一緒に)

地域交流活動推進事業実施報告書

日 時	令和5年12月16日（土曜日） 10時～12時30分
場 所	こころの里 サロン・調理場 正面玄関 他
参加人数	利用者：15名 利用者家族：1名 ボランティア：12名 福祉政策課：3名 職員：6名 ／合計37名
内 容	【お餅つき交流会】 《 目 的 》 季節の行事である餅つきを通して、精神障害者（利用者）と地域ボランティアがふれあい、協力しあうことにより、お互いの理解を深める。 《 内 容 》 男性利用者・男性ボランティアを中心に協力して、6臼（鏡餅・持ち帰り用丸餅・お手入れ用丸餅）の餅をつき、女性利用者・女性ボランティアは建物共用の玄関にてお餅作りと昼食の準備を行う。参加者全員で、ついたお餅と豚汁を昼食としていただきながら交流を図る。 利用者より300円の参加費を徴収し、年始用のお餅を持ち帰っていただく。 《 反省及び課題など 》 ・ノロウイルス防止に加えて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者全員に検温を実施し、手洗いと消毒、手袋・マスクの着用を徹底。餅に直接触れる人（きな取り・お餅作り担当）はキャップも着用。昼食時には人が密集しないよう机や椅子を配置することで感染リスク軽減に努めた。まだ様々な制約が残る中ではあるが、参加された方々もそれぞれ楽しまれている様子であった。 ・今回から新たに1名の登録ボランティアの方を迎え、つき手として加わって頂いた。つき手が不足している中でこうしてボランティアとして支援して下さる方が増えるのはありがたい。日頃支援して下さる登録ボランティアの方に加え、他の行事で繋がりが出来ている社協の登録ボランティアや大学生ボランティアの募集を検討するのもありだと思われる。

地域交流活動事業実施報告 【お餅つき交流会】



もちつき準備



開会式



餅つき



餅作り

地域交流活動推進事業実施報告書
『第２２回 玉野こころの講演会』

開催日時	令和６年２月１７日（土）１１時３０分 ～ １５時３０分 （こころの講演会 １３時００分～１４時３０分）
開催場所	こころの講演会 玉野市立中央公民館 多目的室 こころの健康展 天満屋メルカ ２階イベントスペース
参加人数	利用者、家族、地域ボランティア、一般、スタッフ／合計：１３３名
内 容	《 目 的 》 広く一般市民を対象とし、精神保健福祉について少しでも多くの方々の理解を得る機会となるよう、講演会を開催し啓発活動を行う。関係機関と協力し「玉野こころの講演会実行委員会」として活動を展開することで精神保健医療福祉に携わる関係者のネットワークを築いていく。また、精神医療・保健・福祉の社会資源を広く地域住民にＰＲする機会としても活用していく。 《 内 容 》 会場をアクセスの良い中央公民館に変更して２度目となる「第２２回玉野こころの講演会」は、誰もが求める“癒やし”をキーワードに「音楽とこころの健康～音楽で癒える体験～」というテーマで、医師で尺八奏者の岸本寿男先生をお招きした。 実際に尺八とピアノの演奏に癒されながらの講演となった。講師の話の間もピアノ奏者の松本加代子さんのピアノがさりげなく流れ、会場はリラックスモードにつつまれていた。 尺八奏者としても著名な岸本先生のファンの方が遠方より来られたり、音楽好きの玉野市民の方が大勢詰めかけて、当初予定の８０席から急遽座席を追加し、最終的には１２０人の来場者に講演を聴いていただく事ができた。アンケートでも来場者からは演奏に癒されたといった感想が多く寄せられていた。 尚、今年も感染症対策として来儒者には受付での消毒・検温をお願いし、保健師による健康チェックの体制も準備したが、問題はなかった。 「こころの健康展」は市立図書館向かい側の天満屋メルカのイベントスペースで開催した。講演会の来場者が講演前に立ち寄ったり、一般の買い物客や図書館の利用者も通りがかりに足を止めて展示を見てもらえた。 《 反省及び課題など 》 想定を大幅に上回る来場者で開演寸前まで座席の追加や、人の流れが収まらずにご迷惑をお掛けした。せっかく来て下さった皆さんに何とか聴いていただきたいという思いと今後どこで折り合いをつけるのか話し合いが必要。 収録した講演を編集して３月９日（土）１３時から YouTube で動画配信した。さらに多くの、幅広い年齢層の方にも見ていただけたらと思う。

地域交流活動推進事業実施報告書
『第22回 玉野こころの講演会』

【こころの講演会】

講演



演奏シーン



【こころの健康展】



【書式例 5-4】

令和 5 年度 指定管理者自己点検結果

点 検 日	令和 6 年 5 月 2 8 日 (6 回目)
施 設 名	地域活動支援センター こころの里
所 在 地	玉野市宇野一丁目 8 - 8
指 定 管 理 者	名 称 特定非営利活動法人 円い空 代表者 理事長 青井 一展 住 所 玉野市宇野一丁目 8 - 8
指 定 期 間	平成 3 1 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 3 1 日 (5 年間)
担 当	地域活動支援センター こころの里 電 話 0 8 6 3 - 3 3 - 5 1 5 1 E-mail maruisora.5151@tulip.ocn.ne.jp

評 価 内 容 の 総 括	総 合 評 価
本施設のこれまでの実績を基盤として、利用者の個々のニーズへの対応に努め、きめ細やかな支援を強化していくことを主眼に事業を実施しており、指定管理、運営等の実施状況は良好であり、全体としても良好に指定管理を行っている。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一時実施を自粛していた事業も再開しつつあるが、周辺地域での日中活動の場の広がりや、利用者のニーズの多様化もあり、共通の活動に集団で取り組むよりも、個々人が思い思いに過ごす傾向が年々強くなってきており、個々の利用者への対応の在り方について、検討を迫られている。	A

■「総合評価」の評価基準

- S (優 良) 次の 3 項目の評価結果が全て A 以上であり、かつ S が 2 つ以上である。
- A (良 好) 次の 3 項目の評価結果が全て A 以上である。
- B (課題含) 次の 3 項目の評価結果に B が含まれている。
- C (要改善) 次の 3 項目の評価結果に C が含まれている。

① 業 務 の 実 施 状 況	評 価 結 果
適切な施設管理の履行】 障害者地域活動支援センターとして、利用者・利用者家族・支援ボランティア・地域の関係機関の意見を踏まえながら、精神障害のある利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう必要な支援を継続している。 【法令等の遵守】 障害者総合支援法や岡山県が定める条例、玉野市障害者地域活動支援センター条例等の法令等を遵守し、適切な施設運営が実施できている。 【安全性の確保】 セキュリティ・消防業務等の専門的な業務は、委託業者を用いながら適切に実施されている。 【財産の適切な管理】 維持管理は適切に実施されている。 【利用状況】 利用契約者は毎年増加。また、年間平均利用者数も一定の水準にある。 【コスト削減への方策】 コスト削減については、支出の大半が人件費関連の支出で、日頃からコスト削減の努力がされており、これ以上のコスト削減は見込めない。	A
② サ ー ビ ス 向 上 へ の 取 り 組 み	評 価 結 果
利用者に対し個別の日常の相談援助業務を継続するとともに、施設の認知度を上げるための地域交流等イベント等を継続、サービスの維持向上に取り組んでいる。 利用者の平均年齢が年々上がってきており、高齢化への対応とともに、センター使用に至っていない若年層への認知度を高めるため、今後は SNS を用いた情報発信などを検討する必要もある。	A
③ 団 体 の 経 営 状 態 （ 経 営 の 健 全 性 ）	評 価 結 果
相談支援事業対応による計画相談給付費収益の維持等により、経営努力を行っており、黒字経営を継続している。 令和6年度報酬改定により相談支援事業の増収が見込まれる一方、備品の老朽化も進んでおり、今後とも注意深く収支のバランスを図っていく必要がある。	A

■ 「評価結果」の評価基準

- S（優 良） 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である。
- A（良 好） 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である。
- B（課題含） 協定書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- C（要改善） 協定書等の基準が遵守されておらず、改善が必要な内容である。